

しず やま
静かなる山

加羅古呂庵 一泉

静かなる山

相模平野の北西に位置する大山は、いつも人々の暮らしを静かに見守ってきました。その山の姿は、どっしりとして人々の心の支えになり、農作の雨乞いの願いをかなえ、江戸時代には江戸の庶民に心の安らぎと娯楽をもたらしてきたのです。今や、相模平野には多くの人が住み、交通が活発になり、産業が発展していますが、現代の風景の中にあっても、その山は変わらず人々を見守っています。

例えて言えば、学校の先生が子どもたちの成長を見守っているかのようにも見えてきて、「^{ほほえ}微笑み」「^{つど}集い」「^{みちび}導き」の3つの部分から構成してみました。

「山笑う」というのは春の季語ですが、冬は青みがかった山も、4月、5月になると、緑色を帯びてきて、やさしく微笑んでいるように見えます。

ゴールデンウィークや夏休み、そして秋の紅葉のシーズンなどには、^{あふり}阿夫利神社への参拝や登山・ハイキングなど、^{おおやま}大山を慕って人々が集まってきて、山も賑やかになります。

そして、世俗の雑多な悩みや災いを遥かに見下ろして、人々を励まし、前向きに生きるようにと教え導いてくれているようです。

※縦譜につきましては、当該楽器のほかに他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。また、十七絃は箏に置き換えて記載しています。正確には、五線譜（スコア）をご参照ください。

加羅古呂庵ホームページ



1尺8寸管 尺八I

1尺8寸管 尺八II

二上がり 三味線

花雲調子 途中六・斗 調弦替えあり 箏I

花雲調子 途中六・斗 調弦替えあり 箏II

十七絃

口 四
口 ピ
二 二 三
一 三 五 七 九 斗 為 巾
一 三 五 七 九 斗 為 巾
一 三 五 七 九 1 3 5 7

運指、奏法については、適宜工夫していただけてください。